DXは、日本の未来を左右するものです。垂水市は、この分野での先進自治体として高い注目を浴びており、そのさらなる飛躍が期待されています。教育DXは端末だけの話ではなく、ノウハウや知識の支援が求められる領域でもあり、変化のスピードに合わせて柔軟かつ迅速に対応する必要があります。そこで、生成AIにも詳しい小出氏が支援することで、既に進んでいる教育DXがさらに進化するきっかけとなるでしょう。

最後に、市長が今後目指す垂水市の姿とは

尾脇　本市を、ディズニーランドのように、万人が知っており万人から愛されるような、自然のテーマパークのようなまちにしたいと思っています。豊かな自然と食、水に恵まれた本市の魅力を存分に発揮しながら、都会にはない特徴を生かして、住む人も訪れる人も幸せを感じられるまちづくりを目指しています。特に、ICT等の便利な技術を活用することで、都会的な利便性を補いつつ、猿ヶ城渓谷をはじめ、自然の中で夢や目標を叶える生活が可能になることを実現できればと思います。テーマパークに行く感覚で本市に訪れる、そういう観光振興と地元の食材等による6次産業化を通じ、垂水市の魅力を発信し、住民や訪問者にとってより魅力的な地域にしていくことで、人口減少や地方の課題に立ち向かっていきたいと思います。

陳内　今、国では「第二の住民票制度」の導入について議論されています。この制度では、登録者1千万人を目指すことが計画されており、具体的な登録条件や制度内容の設計の段階です。自治体として今重要なのは、制度を利用してどのような人々に第二住民票を取得してもらうかを明確にし、デジタルマーケティングを駆使して情報発信や対象層へのアプローチを行うことです。垂水市がこの制度の全国的なシェアを獲得するためには、先手を打つ戦略と計画の実行が重要であり、市長の下、組織構築や生成AIの活用、専門家の協力を取り入れ、楽しみながら推進していけばよろしいかと思います。

尾脇　国内だけでなく、外国にも視野を向け、本市を魅力あるセカンドハウスとして提案しても、関係人口の拡大に繋がるかと思っています。

陳内　素敵ですね。我々の内閣府クールジャパンプロデューサーの一人で、二地域居住に詳しい渡邉賢一（けんいち）氏という方がいますので、ぜひご紹介させていただければと思います。

尾脇　よろしくお願いいたします。本市がDXのモデルケースになれればと思います。本日は貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。

05　今回の対談記事は AI を活用し、編集しました。

今回、約 1 時間 15 分に渡る対談を掲載するにあたり、クラウド型音声ファイル文字起こしサービス『ProVoXT』で AI 音声認識による文字起こしを行い約 24500 文字になったものを、本市が活用する自治体専用ビジネスチャット『LoGo チャット』機能内の『LoGoAI アシスタント』を活用し 4790 文字まで自動で要約された文章を編集しました。

【広報担当者の声】
『ProVoXT』が自動で文字起こしを行った 50 分間と、私が文字起こしを行うはずだった時間を違う作業に充てることができました。要約作業では AI に「何文字以内にしたい」といった指定もできたため、ページ配分においても助かりました。

GIGAスクール通信 vol.42

令和３年度から、GIGA スクールによる一人一台端末を本格的に活用した教育が始まった垂水市。ここでは、市民の皆様に、GIGA スクールはどういったものなのか解説するとともに、各校の取組を紹介することで、GIGA スクール構想を基にした教育に親しみを持っていただければと思います。

夢や目標に向かって自己実現を図る子供たちの育成をめざして

東進ハイスクール × 垂水市『学びの教室』

夏季休業中の計４日間、『学びの教室（中学生希望者対象）』において、東進ハイスクールと連携をした学習会を行いました。東進ハイスクール社長の永瀬昭幸さんは、垂水市にゆかりのある方です。垂水高等学校においても、生徒の夢実現のために希望者が通信講座を受けられるよう、魅力的な学習コンテンツの提供をしてくださっています。そして、この夏、中学生向けの体験講座を準備してくださいました。

この講座では、東進ハイスクールの講師の方々が授業・解説をしてくれる動画を視聴できます。東進ハイスクールが、外部に向けて、中学生用講座を提供するのは今回が初めてということでしたが、参加した生徒はそれぞれ持参した端末を使って、目的や課題に応じた教科・単元を選び、熱心に問題に取り組んでいました。このように ICT 活用による新たな学びの機会を通して、生徒が自ら考え、学習方法等を選択し、自分の夢に向かって進めるよう、本市は応援していきます。

生徒の感想

今回、数学の動画を視聴しました。学校の授業で学んだ方法とは別に、短時間で解ける方法を学ぶことができました。この方法は受験でも生かせると思うので、とても良い経験でした。

西原 一花（いちか）さん（中学３年生）

▲ 講座を受講する様子

一人ひとりに合った効果的・効率的な学習で学力向上　AI ドリル『navima』の活用

本市では子供一人ひとりの学力をより高めるために、一人一台端末で AI ドリル『navima』を使えるようにしています。このドリルでは、学習のつまずきに応じて、自動で学年や単元をさかのぼって、一人ひとりに最適な問題が出題されます。また、『手書き解答機能』によって、子供は記述型のドリルに取り組むことができます。さらに、『手書きメモ機能』を使うと、計算をどこで間違えたのか、採点時に確認できるなど、自分の考えや学び方を振り返ることもできます。AI の活用など、時代とともに、学び方の多様化が進んでいます。それぞれの力に合った問題に効率よく、取り組むことができる環境を有効に活用してもらい、子供たちの学力向上につなげていきたいと考えています。

生徒の感想

繰り返し学習ができ、自分の学力に合った学びを進められます。結果によってトロフィーがもらえることも、やる気につながります。

黒岩 愛佳（あいか）さん（中学３年生）